

輸出事業計画

※申請者名：全国農業協同組合連合会新潟県本部 品目：コメ

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- 新潟県産米の輸出実績については、令和 2 年度はコロナ禍の影響等により減少したものの、令和 3 年度は回復傾向にある。
- アジア地域では日系外食チェーンや日系コンビニエンスストアの出店拡大、日本食レストランの増加等により日本食文化が浸透し、日本産米のニーズが年々高まっている。また、アメリカ・ヨーロッパ諸国においても、寿司をはじめとする日本食ブームや日系外食チェーンの進出により、日本産米需要の増加が見込まれている。
- 一方、日本産米は他国産米・現地産米に比べ高価なため、特に現地系スーパーや中食・外食市場でのシェアが広がらず、販売が限定される傾向にある。

【課題】

（生産段階）

- 需要の安定化、生産者手取りの確保

（流通段階）

- 出荷進度の遅延、流通在庫の増加

（販売段階）

- 販売（価格）競争の激化

2. 輸出事業計画の取組内容

（生産段階）

- ・ J A 全農インターナショナル等の輸出事業者や全農本所米穀部と連携して、銘柄別の需要量を把握し、円滑に販売を進めることにより生産者への精算額の向上を図る。
- ・ 需要に応じ、コシヒカリより多収の「ゆきん子舞」等の既存銘柄の作付推進を行い、生産者手取りの安定化を図ることで輸出目標数量の達成を目指す。
- ・ J A グループ新潟 米輸出推進協議会の活動を通じて、輸出用米の生産確保対策及び輸出促進対策に都度取り組み、本県産輸出用米の生産・販売の拡大を図る。

（流通段階）

- ・ J A 全農インターナショナル等の輸出事業者や全農本所米穀部と連携し、フレコン輸出を拡大させ、輸送の効率化を実現するため、引き続き輸送試験等を行い、経費削減に努める。

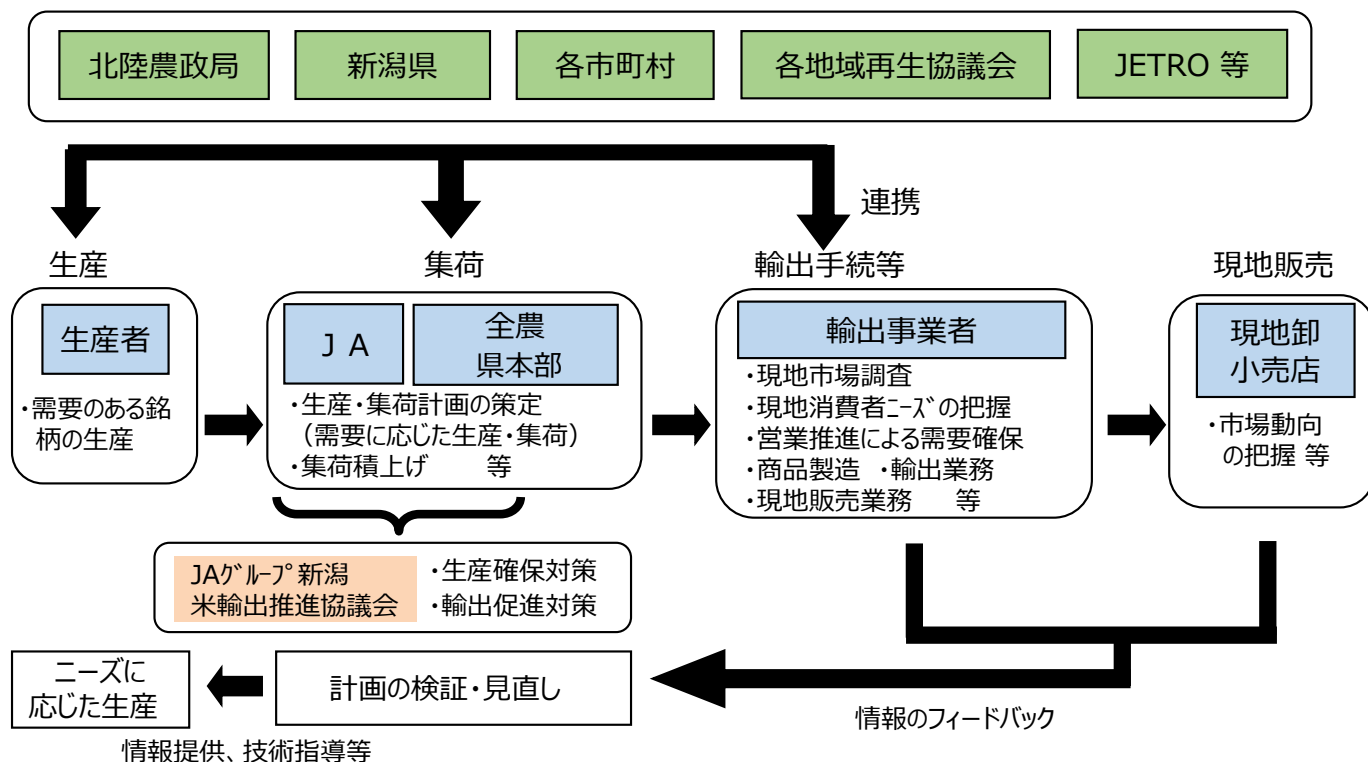
（販売段階）

- ・ 現地ニーズを踏まえた脱気袋・スタンドパックなどの包装形態への切り替え等により、差別化に繋がる商品提案を行う。
- ・ 急拡大する E C 食品市場への新規参入や試食会・イベントの開催など地道な販促活動を行う。

輸出事業計画

※申請者名：全国農業協同組合連合会新潟県本部 品目：コメ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状 (令和2年度) R2.4~R3.3	目標年 (令和6年度) R6.4~R7.3
輸出額 (千円)	202,579	573,000
輸出量 (t)	1,130	4,500
輸出先国	台湾、タイ、シンガポール 等	台湾、タイ、シンガポール 等